

林業福島

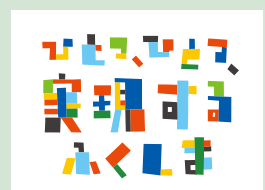
No. 721

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



9

2024



監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 合板のアーチ橋



優良な苗木の 安定供給を目指して

福島県農林種苗農業協同組合

代表理事組合長 上 原 和 直

福島県農林種苗農業協同組合の業務運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

戦後植栽した人工林が成熟し本格的な収穫期を迎え、いわゆる国産材時代を迎えております。しかしながら、需要拡大に伴い伐採された人工林は人手不足や不採算性等により再造林が進まない状況にあります。これは、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林を循環的に利用していく理念が崩れるばかりでなく、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現にも影響を与えるものと思われます。

このような中、国においては令和六年度から新たな全国森林計画がスタートし、今後十五年間で一三七万五千畝の人工造林が計画されております。年間にすると約九万一千畝の造林面積でこれまでの約二・七倍となります。このことから今後相当量の苗木が必要となることが予想されます。

また、昨年「花粉症に関する関係閣僚会議」が開催され十年後の令和十五年度までにスギ人工林の面積を二割削減する、伐採・植え替えを加速化する施策が打ち出されたほか、花粉の少ないスギ苗木の生産割合を九割以上に引き上げる施策が掲げられたところです。

苗木生産においては、生産者の高齢化、後継者の育成、更には労働力不足など様々な課題はありますが、森林吸収源対策や花粉症対策への期待が高まる中、対策に有効となる苗木をできるだけ早く安定的に供給していくことが私たちの使命であると考えます。

当組合においては、花粉症対策の苗木となる特定苗木のコンテナ苗の出荷を令和四年から開始し、今年は県内で植栽されるスギ苗木の約六割にあたる五五万本の出荷を予定しております。また、スギ少花粉品種（従来のスギと比較し花粉量が一割未満）を育苗しており、令和七年春に本格的に出荷していく予定です。なお、県の種子生産体制を補完するため、当組合では特定増殖事業者の認定を受けて令和四年から独自の特定母樹採種園を会津美里町に二ヶ所、南相馬市に七ヶ所整備をすすめています。今後、令和十二年までに供給するスギ苗木の全てを花粉症対策用の苗木に切り替えていく計画です。

当組合では今後、国や県等による再造林の推進に伴い増加が見込まれる苗木の需要にしっかりと対応できるよう体制を整備するとともに、関係機関・団体と連携を強化し、優良な苗木の安定供給をとおして、森林資源の循環利用と森林の有する多面的機能の高度発揮、地域の活性化に向けた取組に貢献してまいりたいと考えております。皆様の一層のご支援・ご協力をよりしく願います。

《も く じ》

とびら

優良な苗木の安定供給を目指して

福島県農林種苗農業協同組合

代表理事組合長 上 原 和 直…1

第42回福島県治山林道研究発表会を開催…2

県政コーナー……………3～4

ふくしま木造化・木質化建築ガイドライン

今年もふくふくしめじの季節がやってきます

「第7回ふくしま植樹祭&第50回いわき市植樹祭」を開催します。…5

第50回福島県緑の少年団大会の開催……………6

林業アカデミーふくしま研修日誌④……………7

普及指導員通信……………8

森連だより……………9

福島県林業労働力確保支援センターだより…10

木の文化を育む⑥……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

第42回福島県治山林道研究発表会を開催

福島県農林水産部森林整備課・森林保全課

1 はじめに

福島県では、治山・林道等の森林土木業務に関する技術の研究、会員相互の情報交換や体験等の発表を通じて職員の技術の向上を図り、森林土木事業の発展に寄与することを目的として、標記発表会を令和6年7月26日(金)に郡山市の林業研究センターで開催しました。各農林事務所や市町村職員など計71名が参加し、治山部門6件、林道部門2件の計8件の発表がありました。



主催者あいさつ

2 発表内容

(1) 発表内容

No.	所 属	氏 名	区分	題 名
1	いわき農林事務所	寺崎 史也	治山	風力発電事業の解除予定保安林における段階確認について
2	県中農林事務所	長澤一太郎	治山	治山事業におけるICTの活用
3	森林整備課	穴戸 雄一	林道	福島県における林道施設長寿命化対策の現状と課題
4	会津農林事務所	石井 智也	治山	高森地区におけるパワーブレンダーを用いた基礎地盤改良工法について
5	南会津農林事務所	室井佳奈子	治山	なだれ対策工における森林化の現状について
6	森林保全課	高田真大朗	治山	個別施設計画の概要と現況
7	県北農林事務所	加藤 修	林道	森林土木工事におけるICT活用工事の事例について
8	相双農林事務所	山下 陽平	治山	重力式コンクリート治山ダムにおけるコンクリート製残存型枠の使用

(2) 審査結果

審査員12名による厳正な審査が行われ、その中から、治山・林道それぞれで全国や北海道・東北地区で行われる発表会の推薦者を決定しました。

【第64回治山研究発表会へ推薦】

相双農林事務所 山下 陽平

【第59回北海道・東北地区治山林道研究発表会へ推薦】

県中農林事務所 長澤一太郎

森 林 整 備 課 穴戸 雄一



発表

3 おわりに

ICT技術や特殊工法を活用した新たな挑戦、長期間にわたる事業効果の検証・事業実績の報告など若手職員を中心に普段の業務における課題や疑問点の解決に向けた取組の発表があり、質疑応答も活発に行われ、貴重な情報の共有が図られた発表会となりました。

近年、激甚化・頻発化している自然災害への対応、森林資源の充実に伴い、より効率的な路網の整備が求められる中、これらの発表をきっかけに、森林土木技術の研鑽に一層励んでまいります。



質疑

県政コーナー

福島県林業振興課

ふくしま木造化・木質化建築ガイドライン

国が「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に改正したことに伴い、福島県では、新たに策定された国の基本方針に即して、「ふくしま県産材利用推進方針」を令和四年に改正しました。

改正した「ふくしま県産材利用推進方針」では、県が整備する全ての建築物を対象に原則として木造化^{※1}などの木材利用が図られるよう、施設ごとに基本構想等の段階で林業振興課を中心とした関係各課^{※2}で検討を実施することとしています。また、木造化、内外装木質化及び木質バイオマスエネルギー利用を行う際は、原則として県産材を利用することを明記しています。（やむを得ない理由で県産材が利用できない場合は、地域材^{※3}を利用することとしています。）

※1 構造耐力上主要な部分である壁、柱、梁、桁、小屋組等の全部もしくは一部に木材を利用すること。

※2 建築物を整備する主務課、営繕課等。

※3 県内で製材、加工され、流通している木材。木材の生産地は問わない。

県有建築物を新たに整備する際、概算工事を確定する計画の初期段階において木造化・木質化の優位性を確認しながら、しっかりと木造化・木質化を計画に位置付けることが重要であることから、令和六年五月に営繕課が「ふくしま木造化・木質化建築ガイドライン」を策定しました。

あわせて、「ふくしま県産材利用推進会議幹事会」の下に設置する部会（施設所管課、林業振興課及び営繕課）で県有建築物の木造化・木質化を検討することとし、本ガイドラインはその検討の際に用いるものとして位置付けました。

ガイドラインでは、県有建築物の木造化・木質化の考え方として、木材の利用量が最も多くなり、木材の見える「あらわし」などにより、利用者が木の良さを一層実感できる「純木造」を第一に検討することを原則としています。その上で、規模・要件など法令上の制限から純木造が困難な場合には、木造と非木造の混

構造による木造化を検討することとし、木質化については全ての計画施設で検討することを原則としています。この「木造化・木質化の考え方」に基づき、①用途・利用形態、②法令、③コスト、④木造化の良さ、⑤木造化の留意点、⑥木質化の良さの六つの視点から、計画施設を木造化・木質化することの優位性を総合評価し、その結果を新たに整備する県有建築物の基本構想等に最大限反映することとしています。

また、本ガイドラインは、建築物整備の初期段階にあたる基本構想に着目して整理されていることから、木造化・木質化による費用対効果の算定や技術面、性能面からの比較検討を基本構想を策定する段階から検討、確認することができ、県内では実例の少ない中大規模建築物の実現

今年もふくふくしめじの季節がやってきます

「香り松茸、味しめじ」という言葉をご存じでしょうか。「松茸」は高級きのことして広く知られているマツタケのことですが、「しめじ」はホンシメジのことを指しています。マツタケばかり注目されて、影が薄いホンシメジですが、実はマツタケ同様に希少で高級な、とても美味いきのこです。

今回は、もっといろんな人に知っ

に寄与するものと期待されます。

さらに、建築士や設計者、施工者にとっても、木材の選定、構造設計、耐震性・耐久性の確保に関する項目があることから、実践的な参考資料となり、福島県内での木造・木質化建築が大きく推進することが期待されます。

ガイドラインのURL：

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065c/wood-guideline.html>



てほしい「ホンシメジ」と福島県のオリジナル品種ホンシメジ「ふくふくしめじ」について紹介します。

1. 「ホンシメジ」とは

ホンシメジ（図ー1）は、樹木の根と共生して生活しているきのこ（菌根菌）で、シイタケやナメコなどの樹木を分解して生活しているきのこ（腐生菌）とは異なり、原木や

菌床栽培※できのこを発生させることが困難とされてきました。そのため、スーパリーなどに並ぶことはほとんど無く、マツタケと同様に希少性の高いきのことして珍重されていました。なお、現在では、滋賀県森林センターにおいて、栄養体に押麦を使用することできのこを発生させることが明らかにされ、小規模ではありますが、栽培されたホンシメジがスーパリーに並ぶようになりました。

※きのこの栽培は九〇cm程度の長さで切った原木にきのこの菌を打ち込んで栽培する原木栽培と、樹木の切りくず（おが粉）と栄養体（米ぬかや小麦の表皮）を混ぜてブロック状に固めたものにきのこの菌を植付けて栽培する菌床栽培があります。

2. 「ふくふくしめじ」とは

ふくふくしめじは福島県のオリジナル品種ホンシメジである「福島H106号」の愛称となります。

福島H106号は、林業研究センター（当時・林業試験場）において、平成十年に県内で採取された野生株を選抜し、開発された品種となります。県では、空調施設などの栽培環境を細かく管理できる施設を持たない生産者でも栽培可能な方法の開発に取り組む、日向土と押麦を使用した培地で培養したホンシメジ菌床を、林内などの野外に埋め込んで栽培する方法や農業用のハウスで管理し栽培

培する方法を開発してきました。現在では、広葉樹チップと押麦を使用し、きのこの収穫量などが改善された菌床を新たに開発し、野外の農業用ハウス内にて自然環境を生かした栽培方法で、県内生産者によって栽培されています（図―2）。

ふくふくしめじの特徴は強い旨味にあります。他品種のきのこと比較しても旨味成分が多く含まれていることが明らかとなっており、野生のホンシメジと比較しても遜色ない美味しさとなっています（図―3）。そのほかにも、大型で菌切れと舌触りが良いため、汁物や炊き込みご飯、パスタに炒め物など、和洋中ジャンルを問わず、様々な料理との相性が抜群です。

3. 今年度の「ふくふくしめじ」の生産状況について

ふくふくしめじの菌床は福島県森林・林業・緑化協会きのこと振興センターで製造され、各生産者が購入し各自の生産施設にて栽培が行われています。令和五年度は七団体十五名の生産者が栽培を行い、一、〇〇〇箱程度のふくふくしめじが収穫されました（図―4）。

今年度も同規模の菌床製造で、十六名の生産者により栽培を行う予定です。生産者の技術力は年々向上、安定してきていることから、令和五年度と同程度かそれ以上の生産量が見込まれます。



図―1 野生のホンシメジ

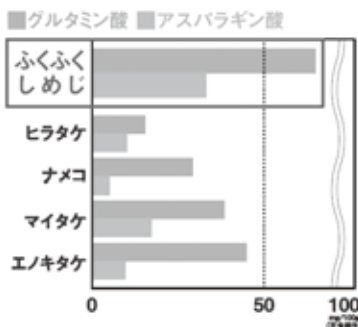


図―2 ふくふくしめじ栽培の様子

今年度の発生時期は昨年度と同様になると予想されますが、発生時期が近くなりましたら、県HP等で逐一情報を発信していきますので、楽しみにお待ちください。

きのこに含まれるうま味成分量の比較

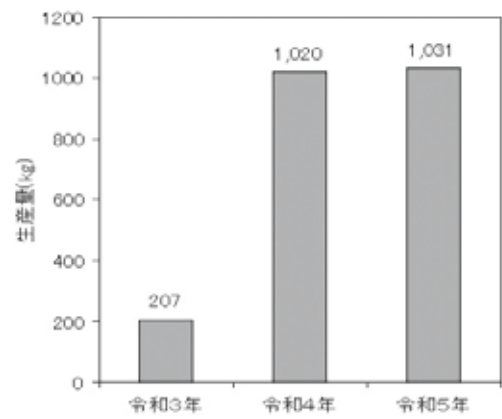
※「ふくふくしめじ」のグルタミン酸、アスパラギン酸は福島県林業研究センターデータ。※「ふくふくしめじ」以外の結果は、吉田ら（1996）日本食品科学工学会誌（第43巻第6号）による。



図―3 ふくふくしめじの旨味

イメージング質量分析装置によるグルタミン酸の可視化

※吉田ら（2019）きのこ類の旨みに関する研究。福島大学食農学類 平塚教授測定



図―4 ふくふくしめじ生産量

「第7回ふくしま植樹祭&第50回いわき市植樹祭」を開催します。

ふくしま植樹祭実行委員会

昨年9月に南会津町の「会津山村道場」で開催しました第6回ふくしま植樹祭は大変良い天気にお越しいただきました。美しいふるさとを継承するため、森林と人との絆の森林づくりとして、町内に育つ広葉樹の植樹・育樹活動に取り組みました。

今年は、11月10日(日)に第7回ふくしま植樹祭と第50回いわき市植樹祭を共同開催いたします。東日本大震災での大津波により大きな被害を受けた、いわき市錦町須賀地区において、「地域の復興と憩いの場を創生する森林づくり」を開催目的に「森林づくりを続ける、広げる、繋げる」をテーマとし、ふくしまの美しい緑と心が、未来も豊かであり続けるよう、時代を超えて希望と喜びを繋ぐ森林づくりを行ってまいります。

当日は、クロマツ、カワヅザクラなどの植樹活動や以前に海岸防災林としてクロマツ等の植樹を行った区域の生育を促進するため、枝払いや除伐の育樹活動を行うほか、丸太切り、薪割り、木を使用したクラフトなどの参加型体験プログラムを用意しております。

また、2024年度ミス日本みどりの大使の安藤きらりさんと福島県出身で2017年度ミス日本みどりの女神の野中葵さんも、皆様と一緒に活動に参加されます。

植樹祭は継続して行っていくことが大切です。

(参加申込は、締め切りしました。)

これまでのふくしま植樹祭

	年月日	開催場所	参加人数	植栽本数	育樹活動	備考
第1回	2018.11.4(日)[H30]	南相馬市鹿島区北海老地内	約3,000名	クロマツ9,000本 広葉樹 18,000本	—	第6回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭との共同開催
第2回	2019.10.6(日)[R元]	ふくしま県民の森林(大玉村玉井地内)	約2,000名	広葉樹 2,800本	少花粉スギ苗補植、 除伐、林内清掃	
第3回	2020.10.11(日)[R2]	福島県「昭和の森」(猪苗代町天鏡台地内)	約1,000名 参加予定	アカマツ、サクラなど 2,500本を予定	除伐などの緩衝帯整備 を予定	台風14号接近に伴い中止 苗木は関係者により後日植樹
第4回	2021.11.7(日)[R3]	海岸防災林(浪江町大字請戸地内)	約1,000名	クロマツ8,200本	—	
第5回	2022.9.11(日)[R4]	恩賜林(矢吹町文京町地内)	約500名	クスギ、ヤマザクラ など 500本	萌芽整理(芽かき)	
第6回	2023.9.3(日)[R5]	南会津町山村道場(南会津町糸沢地内)	約500名	ブナ、ヤマザクラ など 2,500本	刈り払いなどの緩衝 帯整備	

第50回福島県緑の少年団大会の開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

令和六年七月二三日(火)、サンライズもとみや(本宮市)及びふくしま県民の森(大玉村)において、第五〇回福島県緑の少年団大会を開催しました。

本大会は、県内の緑の少年団が一堂に集まり、これまでの緑化活動の実績の発表や交流活動を通して相互に友情と連帯を深め、豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的に開催するもので、昨年までコロナ禍で出席者数を制限するなど規模を縮小して開催しておりましたが、今回第五〇回目の節目の大会ということで、コロナ禍以前の規模で開催することとしました。

午前は、式典をサンライズもとみやの大ホールにて行い、県内少年団十五団一

二三名の団員のほか、先生、保護者、来賓等を含め約二三〇名の方々にご参加いただきました。当協会小増山善継会長の主催者挨拶から始まり、内堀雅雄福島県知事、山田平四郎福島県議会副議長(議長代理)、松村孝典関東森林管理局長、押山利一大玉村長(本宮地域緑化推進委員会委員長)から来賓祝辞、第四五回福島県緑の少年団活動コンクールの表彰式(受賞団は当協会ホームページに掲載)、福島県緑の少年団結成五〇周年表彰、活動コンクールで県知事賞を受賞した会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団による活動発表、大玉村の大山小学校及び玉井小学校の緑の少年団による誓いの言葉の順に執り行いました。

五〇周年表彰は、昭和四九年に福島県

では初となる緑の少年団を結成され、五〇年の長きにわたり活動を継続されている少年団を表彰するもので、川内小中学校緑の少年団、会津若松市立謹教小学校緑の少年団、矢祭山みどりの少年団の三団が受表彰しました。

午後は、十団一四三名(先生等含む)がふくしま県民の森に移動し、昼食を摂り、第五〇回大会を記念して県民の森内にドンダリの苗木(ミズナラ、コナラ、クスギ、カシワ、シバグリの五種十本)の記念植樹を行い、その後は少年団各々に分かれて、NPO法人福島県もりの案内人の会(自然観察・木工クラブ)、ふくしま・グリーンフォレストの会(丸太切り)、白河高原薪の会(薪割り)、福島県キャンプ協会(テント設営体験)、ツリークライミング®クラブどんぐりの芽(ツリークライミング)の方たちの指導のもと、様々な体験、交流活動を行いました。大会当日は天気にも恵まれて、夏の暑い中での活動となりましたが、それでも少年団の子どもたちは元気よく活動に取り組んでいました。

福島県で緑の少年団が結成されてから半世紀となりますが、緑の少年団の皆さんは、歴史ある学校内での活動や、地域に根ざした様々な活動を続けているほか、温暖化など自然環境が変化する中で森林環境学

習など、新たな活動にも取り組んでいます。このような活動は、福島県の豊かな緑を未来に引き継いでいくことに繋がる、とても素晴らしいことです。この大会を契機に、緑や森林づくりへの関心が、さらに高まること、交流の輪がさらに広がることを願っております。

このように、これまで半世紀にわたり受け継がれ、発展してこれましたのはひとえに多くの関係者の皆様のご理解、ご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。次の五〇年に向けて今後とも緑の少年団が継続して、より一層活動に取り組めますよう支援してまいります。

【今大会参加少年団】 ★：50周年

大山小学校緑の少年団(大玉村)
大玉村立玉井小学校緑の少年団
開成小学校緑の少年団(郡山市)
中郷小学校緑の少年団(三春町)
五箇小学校緑の少年団(白河市)

★矢祭山みどりの少年団
(矢祭町立矢祭小学校)

★会津若松市立謹教小学校緑の少年団
会津若松市立大戸小学校緑の少年団
会津若松市立川南小学校

「ホタルの里」緑の少年団
喜多方市立第一小学校みどりの少年団
喜多方市立上三宮小学校
みどりの少年団

猪苗代小学校緑の少年団
(猪苗代町)

磐梯第二小学校緑の少年団
(磐梯町)

西山小学校緑の少年団(柳津町)

★川内小中学園緑の少年団(川内村)



活動コンクール表彰(県知事賞・川南小)



結成50周年表彰(3団)



記念植樹



ツリークライミング

林業アカデミーふくしま研修日誌④



研修も四ヶ月が経過し、林業の基礎的な知識と技術を学んできた研修生達は、初めてのインターンシップに臨みました。

○七月の研修内容

「下刈り」

草地での練習を重ね、今回初めて実際の造林地で実習を行いました。研修生達は植栽された苗を確認しながら、慎重に刈払機を操作していました。

「林内路網（バックホウ操作）」「チェーンソー伐木造材技術」「高性能林業機械運転技術」

今年度から、三つの講義を三班に分かれて三日間のローテーションで実施しています。一班四、五名のため研修生一人あたりの実習時間が増え、更なる技術の定着が期待されます。

「放射性物質対策」

県内の空間線量率は年々低下しているものの、森林内での作業の安全を確保するため、放射性物質に対する正しい知識を学びました。

「境界管理」

境界が不明瞭な林分の施業や集約化に対応するため、境界確認の知識と現地確認の方法を学びました。

「周囲測量」

ポケットコンパスとGNSS対応

レーザーコンパスを用いた測量実習を行い、作業効率や精度が大きく変わることを実感しました。

「間伐」

実際の間伐予定地で立木の形状や密度、間伐木の伐倒方向や搬出の方法も考えながら選木作業を行いました。

「社会人教養（ビジネスマナー実習）」

初めてのインターンシップに備え、職場や地域社会で円滑な意思疎通を図るための心構えや名刺交換などのスキルについて学びました。

「就業体験（インターンシップ）」

森林組合・林業事業体にご協力をいただき、三日間のインターンシップを実施しました。研修生達は、初めての就業体験で多くを学ぶとともに自分の課題が明らかになったようです。終了後は報告会を開催し、それぞれが体験した仕事やご指導いただいたことを共有して学びを深めました。

○研修生の感想 芳賀和仁さん

七月の研修でとても印象に残っていることは、実際に伐倒したことです。

立木の前に立った時、「本当に自分がこれを倒せるのか」と全く倒せるイメージが湧きませんでした。その

の時講師の先生から「倒すイメージができないなら伐るな」という言葉を受け、私は今まで受け口と追い口を作って倒す、という簡単なイメージだけで練習をしていたことに気づきました。それからは木の様子を見て、どのように倒すか、どんな手順で伐り進めるかなどをしっかりとイメージすることを第一に考えるようになりました。

七月末のインターンシップでは、森林組合の方から主に刈払機など下刈りについてアドバイスを受け、自分の癖を知り、どのような状況で下刈りを行うか考えることを教えていただきました。

これまでの研修でいただいた言葉、指導を忘れずにこれからの林業を担う人間になれるよう、精一杯頑張ろうと思います。

○研修生の感想 渡辺直也さん

七月は林業をしていく上で欠かせない重要な講義が多く、座学で学んだことを実践する難しさを感じた一ヶ月となりました。

下刈り実習では楽に刈れるアカデミー周辺で練習をし、その後実際に植林してある山に行つての講義でしたが、傾斜や植林によって刈払機の扱いの難易度が格段に上がるということを大きく感じました。傾斜によつて動きが制限される中で綺麗に刈る技術、また苗木を切らないようにと慎重に動かす繊細さなどが必要になると学びました。

他にも様々な講義で新しく学ぶこ

とや課題などたくさん出てきたので、一つ一つしっかり学びを定着させ、課題を克服できるよう取り組むと同時に、研修にご協力いただいている関係各所のみなさまに感謝しながら、今後の研修もより一層励んでいきたいと思っています。



「下刈り」実習の様子



「放射性物質対策」林内で放射線量を測定

みんなでお悩み解決！ 林業施策の推進に向けた取組

福島県農林事務所

林業普及指導員 東 村 真太郎

1 はじめに

近年の林業施策は、地球温暖化対策、林業のDX化・低コスト化、花粉の少ない森林への誘導、森林経営管理の集約化などの諸課題に対応するため、各種制度の創設や変更がなされていますが、施策を推進するためには現場で実務に携わる方々の理解が欠かせません。これまでも様々な機会を通じて普及活動を行ってきましたが、今年度は当事務所主催による意見交換等を行いましたので、その取組について紹介します。

2 最近の取組

	日 付	会 議 名	対 象 者
(1)	7月29日	第1回森林経営管理制度県中地域連絡会議	市町村職員 12名
(2)	8月1日	森林経営計画策定研修会	森林組合職員 9名
(3)	8月1日	農林事務所・森林組合担当者意見交換会	森林組合職員 15名

(1) 第1回森林経営管理制度県中地域連絡会議

森林経営管理制度については、その取組が進められているものの、制度の主役となる市町村においては、林業専門の職員がおらず、他業務との兼務を余儀なくされている場合が多いため、集積計画の作成が困難な状況にありました。そこで、取組に当たっての課題整理や対応の検討を行い、県中地域における連絡体制の強化と森林経営管理制度の推進に資することを目的として、今年度より県と市町村担当者による連絡会議を設置しました。第1回連絡会議では、境界明確化等の課題や人材不足の悩みを共有するとともに、森林整備につなげられるような取組事例等の情報交換を行いました。今後も年に複数回開催し、制度を進めるうえでの諸課題に対する技術的フォローや各種情報交換等を進めてまいります。

(2) 森林経営計画策定研修会

森林経営計画は、長期的視点に立った適正な伐採や造林、間伐などの森林施業を行うことや、意欲のある森林組合等へ施業を集約化するための重要なツールですが、膨大な筆数の森林の一覧表の作成や認定基準の適合判定等、策定に至るまでの事務量が負担になっています。このため、ふくしま森林クラウドを活用した、森林簿からの一覧表の一括作成や、エクセルシート様式による認定基準の自動計算等について説明するとともに、机上演習を行い、より実践的な理解を深めました。

(3) 農林事務所・森林組合担当者意見交換会

森林組合は、地域の森林整備事業の重要な担い手ですが、補助事業を実施するに当たっては、森林所有者からの様々な要望や作業上の課題など、現場ならではの悩みがあると考え、事業の説明だけでなく、意見交換の時間を多くとりました。その中で、造林補助事業の単価の実態や森林環境基金森林整備事業の在り方などへの意見があり、今後、事業を円滑に推進していくに当たってのポイントなどを確認しました。

3 今後の取組

普及活動では、市町村林務担当者等の普及客体に、制度の要点や実行手順等を理解していただくことが重要です。参加者からは普段抱えていた疑問や悩みを気軽に相談することで、理解が深まったとの感想をいただきました。引き続き、普及客体が何を望み何に悩んでいるのかを丁寧に聞き取り、形に拘らずに課題解決に向けて共に考えることによって、林業の諸施策の推進に努めて参りたいと思います。



第1回森林経営管理制度県中地域連絡会議



森林経営計画策定研修会



農林事務所・森林組合担当者意見交換会

森連だより

皆伐再造林に向けた
視察研修

夏の日差しが厳しい八月の初旬、当会では役員の視察研修として、南相馬市の上原樹苗に伺いました。我々、森林組合系統が現場で植え付けをしている苗木がどのように育てられているのか、当日は上原樹苗代表の上原さま、県農林種苗協同組合の大久保専務より大変興味深いお話をいただきました。

苗畑を案内いただき驚いたのは、苗木の種類がとても豊富なこと。扱っている種類は一〇〇種類以上に及ぶとのことでした。県内に留まらず、全国から多様な注文があり、どんなニーズにも応えたいとお話したのは、森林をどの様にデザインするか、我々の担う役割の重要性に改めて気づかされました。

コンテナ苗の生産が始まりおよそ十年が経過し、県内で生産されるスギの苗木は全てコンテナ苗に移行し

ているが、生産の始まった当初は品質が安定せず、造林者からの評価も芳しくなかったことを代表の上原さまが振り返り、コンテナ苗が主流になるまでの苦労話では役員も傾きながら聞き込んでいました。

本県では本格的な皆伐再造林への動きが始まりつつあり、計画的な皆伐と将来を見据えた再造林を進めていく上では、苗木生産者の方々の連携は非常に重要です。森林所有者の一番近い存在である我々森林組合系統が、今後の森林経営をどのように進めていくべきか全面的にサポートして参りますので、森林所有者の皆様にも木を伐ることは悪いことではなく、適切に伐採と再造林を進めることが、森林の適切な管理に繋がることをより一層、お伝えしていく所存です。森林のことでお悩みの方は、お気軽に近くの森林組合へご相談ください。



談ください。

視察の翌日、当会いわき木材流通センターの土場にて、流通センター所長より役員へ向けた現在の入荷状況等について、説明を行いました。

皆伐が進むことで増加する木材を、必要とする方へ適切な価格で販売することで、森林所有者への還元が高まり、再造林の意欲が醸成されるよう当会流通センターにおきましては、ニーズに沿った流通体制の確立を進めて参ります。

戦後初の収穫期を迎えた林業界、未来につながる森林を作るのは間違いない私たちです。

関係各位におかれましては、更なるご指導ご鞭撻をよろしく願います。



コンテナ苗の手入れする従業員のみなさま
誇らしい表情で作業をされていたのが印象的でした



視察後に記念撮影



流通センター所長より入荷状況等について説明

最後に、このたびの視察に際し、ご協力いただきました上原さま、大久保専務に感謝申し上げますとともに、あの暑さの中、心地よいあいさつとまぶしい笑顔の従業員のみなさまに感銘を受けました。いつの日か、今回拝見した苗木を現場で植え付けできる日を楽しみにしております。

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成と雇用管理改善の取組

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センターでは、事業者が林業の持続的かつ健全な発展を担う上で不可欠な、雇用管理改善や就業者確保・育成等の取組を支援しています。

ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修等について紹介します。

①「緑の雇用」担い手確保支援事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業者の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムと研修テキストのもと、集合研修と実地（OJT）研修を実施中です。

七月末現在の研修生は、一年生が二十八名、二年生が二四名、三年生が十七名の計六九名で、前年度（六一名）から八名の増となっています。

●集合研修

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生が二七日間、二年生が二六日間、三年生が十九日間、全体的な日程は、六月三日から始まり、十一月二八日に終了する予定です。

七月末日までに終了した研修は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働・現場作業の安全力・機器メンテナンス・獣害対策・健康管理・普通救命救急の学科、造林・育林・森林調査の実習、刈払機とチェーンソーの特別教育です。

二年生では、現場作業の改善力・機器メンテナンスの学科、造林・育林の

実習、走行

集材機械の運転に係る特別教育です。

三年生では、現場作業の総合

力・森林施業の体系・事業所経営

の学科、車両系建設機械運転技能講習、伐木等機械・簡易架線集材装置の運転に係る特別教育です。



機械運転特別教育の受講状況

●実地（OJT）研修

事業者が行う研修（最大八ヶ月間）で、六月一日から開始しています。

県内では、三三の認定事業者で各指導員のもとで行われています。

②「緑の雇用」担い手確保支援事業（フォレストリーダー研修）

認定林業事業者の就業経験五年以上の者を対象とし、効率的な現場作業を主導できる現場管理者を育成するための研修を実施中です。

今年度の研修生は十八名で、前年度（十三名）から五名の増となっています。

カリキュラムは、能力向上指導方法や生産性向上のための作業システム等十八項目の座学と、造林作業指揮者安全衛生教育ほか二つの資格取得です。

全体的な日程は、八月六日から十二月五日の間で、十六日間となっています。

③林業アカデミーふくしま就業前長期研修 県からの受託事業で、森林作業技術

の習得等に係る六講座の講師・実習地の調整を行うとともに、林業の現場を实地に視察する「林業の仕事」を福島県森林組合連合会と共同で四月十一日に行いました。

今後は「森林作業道開設」・「高性能林業機械運転技術」の実習を実施する予定です。

さらに、五九事業者の情報シートを研修生に提示し、インターンシップ実施調整を行い、就職ガイダンスを二二事業者の参加で開催しました。

④林業アカデミーふくしま短期研修

「路網整備と作業システム」について、地域における効率的な施業方法等の指導に必要な基礎的な知識・技術の習得及び素材生産性の向上に向けた技術指導に必要な知識・技術の習得を目的として、七月二四日から二六日の三日間で、林業アカデミーふくしま大講義室を会場に、参加者五名で実施しました。

⑤雇用管理研修会・雇用管理改善相談会

全国森林組合連合会との林業就業支援事業（雇用管理改善）委託契約に基づき行うもので、林業事業者の雇用管理の改善を進め、林業の就業と職場定着を促進することにより、林業労働力の育成・確保を図ることを目的としています。

八月八日にビッグパレットふくしまプレゼンテーションルーム（郡山市）を会場に、経営者や雇用管理担当者等二七名の参加で開催しました。

講師はワイフォレストリー代表（長野県）の横山繁樹氏で、「視点」を変えると流れも変わる「経営者、組織のあり方」と題して講演をいただきました。

(1)視座の拡張では、鳥の目、虫の目、魚の目の三つの目で見ることが重要。(2)持続可能性では、世界の長寿企業のTOP10のうち七社が日本企業であり、



雇用管理研修会の開催状況

これは日本人が目に見えないものを信じるという日本人の精神的なものが大きく、経営に大切なものは「小手先」のテクニクではなく根源的なものの「縁」が大切である。

(3)組織と人的資源では、経営者は最近の若いやつとは、「個性」である人間を「概念」として捉えてしまうことに陥りやすい。経営者は、自分の組織の社員を「概念」として捉えるのではなく、「個性」として捉え、森林をつくるには「適地適木がありように」組織をつくるには「適材適所」がある。という様々な視点に参加者皆領いていました。

また、研修会終了後には、福島県働き方改革推進支援センター所属の長岡聡特定社会保険労務士による雇用管理改善相談会を行いました。

⑥森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験として、県立岩瀬農業高校園芸科の三年生二七名を対象とし、六月四日に刈払機の特別教育の受講を支援しました。

◎今後の研修事業内容

今後も次のとおり様々な事業を予定しております。逐次広報を行いますので、是非ご参加をお願いいたします。

「中堅技術者等の技術向上に関する研修会」を林業アカデミーふくしまにおいて十一月二一日に開催予定です。林業女子会への支援として、「南会津の森とアロマのワークショップ」を十月十二日に実施予定です。また、高校生の職場体験も実施予定です。

木の文化を育む 66

エ「フ」レンドリーなモノづくり (Rose wood 木の工房)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

〇はじめに

近年、異常気象の増加や生物多様性の損失など、私たちの生活を取り巻く環境には様々な課題があります。一人ひとりの行動や選択が環境にどう影響するのかを考え、意識することが持続可能な社会を実現する一歩に繋がります。

〇建具大工の技術を活かして

南会津産の木材で雑貨を製作する「Rose wood 木の工房」の高橋幸徳さん(本宮市)は、建具大工の技術を活かして、日々の暮らしに寄り添うモノづくりをしています。さまざまな生活の道具を温もりある木で製作しながら「将来大人になる子どもたちの負担にならないよう、モノづくりを通して自分出来ることをやり続け、持続可能な社会を実現していきたい」と高橋さん。

製作する木の雑貨は、仕上げに日本食品衛生法適合成分の植物性オイルや蜜蝋入りオイルを使用しているため、子どもが口にしても安心安全

です。

〇クラフト市の開催

二〇二二年五月に「Rose wood 木の工房」をオープンした高橋さんは、「地域との交流を深め、モノづくりを向上していきたい」という想いを胸にみんなが「作る」「繋がる」クラフト市を開催しました。こうしたハンドメイド展はモノづくりを通じて地域との交流を大切にしたいという高橋さんの想いをカタチにしたプロジェクトです。作家独自の技法でアップサイクルされた商品やオリジナルカラー、ベーカーリー、スイーツ、旬の野菜、豚汁など、さまざまな作り手がハンドメイドの魅力を発信する場となっています。またモノづくり体験ができる場として、木工体験ワークショップを開催し、老若男女が楽しめるキューブパズルや小物入れを製作しました。高橋さんはプロジェクトを通してモノづく

りの楽しさを伝え、子どもたちの自主性や創造性を育んでいます。

〇果樹の木のボタン

高橋さんは県内の他業種と連携し、着物をアロハシャツに再利用する「ふくしまアロハ」の製作に携わっています。白河の果樹園の剪定で出たりんごや梨の木を使用したボタンは、高橋さんが一つひとつ丁寧に心を込めて製作しています。果樹のボタンは「ふくしまアロハ」の魅力をより一層引き立てる唯一無二のボタンです。

〇木屑の活用

高橋さんが木製品を製作した際に出た木屑は畜産農家や野菜農家で有効に活用されています。「畜産農家では牛舎に木屑を敷いて牛のベッドに利用しています。木屑は穀殻や糞よりも糞尿を吸収・脱臭するため、牛のベッドに最適です。糞尿を吸収した木屑は堆肥として田畑に

撒くことで、米や野菜が良く育ち糖度も増すそうです」と高橋さん。木屑を畑に撒く事で土が絞まらず良好な土壌を保つことができます。

高橋さんは、木製品の製作で出た木屑も有効に活用し、人や環境に優しいモノづくりに取り組んでいます。

〇まとめ

一人ひとりが環境問題に対する意識と責任を持ち、取り組んでいくことが求められています。貴方も持続可能な社会を実現する一歩を踏み出してみませんか。



木のおもちゃ『汽車』



鉛筆延長ホルダー & キューブカレンダー

※鉛筆延長ホルダーは9月28日・29日開催予定のキッズドリームミュージアム2024 IT&クラフト体験エリアにて製作できます。



キッズドリームミュージアム2024



木製品を製作する高橋さん
夢のある素敵な作品が生み出されます！

県森連いわき共販における木材市況（8月分）

令和6年9月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
ス ギ	4.00	9 下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	10.0	9.8	
	3.65	16上			
		24上			
	3.00	9 下	10.2	8.0	
		10～13	12.0	11.5	
		14～16	11.4	10.3	
		18～20	11.2	10.8	
		22上	10.8	10.5	
	6.00	16～20			
ヒノキ	4.00	10～13			
		14～16			
		18～20			
		22上			
	3.00	16～20			
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22			
		24上			
	3.00	16～22			
		24上			

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
ク リ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モ ミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	9月の共販日
販売量は2,403㎡（前年同月比127%）でした。 市況は、先月同様スギ柱材、中目材とも市毎に下げに転じました。無入札物件も増えています。 製品の動きが非常に悪くその影響を受けているものと思われます。 先行き、この状況がしばらく続くものと思われます。 製品の動きが活発になることを期待したいです。	6日(金) 17日(火) 27日(金)

行 事 と お 知 ら せ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索

東京オリンピック・パラリンピックで選手たちの生活を支えた県産材が、北塩原村にある裏磐梯高原の遊歩道にレガシー利用されています。

取材した中瀬沼探勝路は、松原湖と小野川湖のほぼ中間に位置する遊歩道です。特にコース中の展望台から中瀬沼越しに望む磐梯山は、裏磐梯でも随一の景観を誇り、磐梯山が色とりどりに映える紅葉の時期等はカメラマンや絵を描く方にとっても人気のあるスポットとなっています。

毎年数多くの方が訪れるこの探勝路は経年劣化により木材が朽ちてしまい、利用者が歩きにくい状況となっていました。

そこで、北塩原村では令和四年度にレガシー材を譲り受け、修繕工事による加工・施工を経て、姫沼近辺の遊歩道の一区間に幅約七五センチ、延長約二七・六メートルにわたって使用しました。

探勝路の管理を担当さ



周囲の景観に溶け込んだ現在の状況



令和4年設置当時の状況

五輪レガシー材の新たなスタート
中瀬沼探勝路編

福島県会津農林事務所 山口 公康

れている北塩原村観光課の大島さんにレガシー材を使用しているの感想を伺うと、「北塩原村には数多くの探勝路があり、ところどころに劣化が見られて木材の確保に苦慮している中で、良い木材を使って綺麗に整備することができてありがたい。しっかりとして丈夫で、利用者の方々が歩きやすい遊歩道になったと思う。」とのことをお話をいただきました。

皆様も裏磐梯の探勝路で豊かな森林、山や湖を楽しみながら、足元を支えるレガシー材に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

表紙の写真



「合板のアーチ橋」

第20回ふくしま森林・林業写真コンクール入選

受賞者 大島市郎さん（会津若松市）

撮影場所：南会津郡下郷町湯ノ上

コメント：作業するために合板に覆われた橋

発行人
飯沼隆宏

陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

はなしの
ひろば

それぞれに風情

旧暦のお盆を過ぎた頃から、まだ蒸し暑さが残る夕暮れどきに「チィチィ」と虫の音が聞こえてくるようになってきた。自然が、季節の交代を共有しているかのようだ。

虫の音について、ある研究者が、世界のほとんどの人は、虫の音を右脳で聞いているのに、日本人とポリネシア人だけが左脳（人間の話す声の理解を持つ脳）で聞いていることを調べあげた。これは、右脳は、ただの雑音。左脳は、人の声と同じと認識していて、様々な感情を重ねあわせているという。「虫を聴く文化」が日本特有のものだということも頷ける。

ただし、「虫の声」は声ではなく、翅をこすり合わせた時の音。コオロギ等は、「リーン」と一回鳴くのに四〇回以上も翅を左右にこすり合わせ、バツタの仲間、後ろ脚と前翅をこすり合わせて鳴いているという。こすり合わせて音にする技は本能だろうが、すばらしい。

まだ、新幹線が開通していなかった時代、九月中旬岩手県の洪民村へ二度目の旅をしたことがあった。歌人石川啄木の生まれ故郷の地を再び踏むことができた満足と感動を抱えた復路、特別急行列車への乗り継ぎの待ち時間、盛岡駅のホームで聴いた多量の虫の音を今でも覚えている。少しづつ秋気で澄み始めた夜の帳に響き渡っていた。陽が沈むと、もう一枚羽織りたくなるほどの涼しさだったが、昨今の異常気象からすれば、あのめりはりのあった季節がとても懐かしく思い出される。

虫の音は、小さくても大きくても、少量でも多量でもいい。それぞれに違う風情がある。

一三六話（都）

お知らせコーナー

●連絡先一覧

事務所名	住所・連絡先
県北農林事務所 （森林林業部）	福島市杉妻町2-16 （福島県庁北庁舎5階） 024-521-2632
県中農林事務所 （森林林業部）	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
県南農林事務所 （森林林業部）	棚倉町大字関口字上志宝50-1 0247-33-2123
会津農林事務所 （森林林業部）	喜多方市松山町鳥見山字天神6-3 0241-24-5734
南会津農林事務所 （森林林業部）	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相双農林事務所 （森林林業部）	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
富岡林業指導所	富岡町小浜553-2 0240-23-6084
いわき農林事務所 （森林林業部）	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

※最新情報は福島県林業振興課ホームページでご確認ください。

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>)

○野生きのこに関する注意喚起

野生きのこが発生する季節となりました。国が出荷を制限している市町村から採取された野生きのこは、出荷・販売・加工、飲食店などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。

また、一部市町村・品目では出荷が可能ですが、出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。

安全な野生きのこの流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

●野生きのこ出荷制限位置図



■：出荷制限市町村
■：出荷制限一部解除市町村
西会津町【ナメコ、ムキタケ、マイタケ、クリタケ】、三島町【マイタケ】、会津美里町【ムキタケ、ナメコ】、只見町【ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、ナラタケ、フナハリタケ、マツタケ】、昭和村【ムキタケ、マイタケ、クリタケ、ナメコ】、会津若松市【ムキタケ、クリタケ】、柳津町【マイタケ】、下郷町【ムキタケ】
県内全域（湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村を除く）
【県の定める出荷・検査方針に基づき検査し、管理されたマツタケ、ナメコ、ムキタケ、ナラタケ】

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもち

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全回転ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-CAN コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1